

### 第43回全国盲学生点字競技大会を終えて

昭和25年から脈々と開催されてきた全国盲学生点字競技大会は、今回で第43回を数えることとなりました。多くの参加校、関係者の皆様のご協力と、何よりも参加された児童生徒の皆様の日ごろの努力により無事修了できましたことに厚く御礼申し上げます。

点字で学ぶ児童生徒が少なくなり、盲学校での点字の専門性を危惧する声も聞かれることから、この10年間の変化を見てみました。次の表が示すとおり、点字教科書で学ぶ児童生徒は、確かに減っているように見受けられます。

#### 使用教科書別人数（人）と全教科書に占める点字教科書の割合（％）

	小学部			中学部			高等部		
	点字	活字	割合	点字	活字	割合	点字	活字	割合
H20	322	279	53.6%	220	240	47.8%	315	830	27.5%
H30	212	328	39.2%	173	311	35.7%	261	1028	20.8%
増減	-110	+49	-14.4%	-47	+71	-12.1%	-54	+198	-6.7%

（全国盲学校長会編「視覚障害教育の現状と課題」第47巻と第57巻より）

このような状況にありながらも、今大会への参加学校数と参加者数は、小学部と中学部では10年前よりも大幅に増加しており、そこに各校の点字学習にかける並々ならぬ思いを窺い知ることができました。

#### 全国盲学生点字競技大会への参加学校数（校）と参加者数（人）

	小学部		中学部		高等部		計	
	校	人	校	人	校	人	校	人
第38回（H20）	24	38	36	53	36	61	49	152
第43回（H30）	34	48	39	64	34	56	56	168
増減	+10	+10	+3	+11	-2	-5	+7	+16

新訂版となった視覚障害教育入門Q&Aの131ページには、熊本盲学校と島根盲学校の先生がお書きになった本大会に関するコラムが掲載されており、次のように綴られています。

「点字競技大会と聞くと、学生時代を思い出し、今でも胸の高鳴りを覚えます。私の学生時代は、自分が全国でどれくらいの位置にいるかということよりも、校内でトップを取ることを目標に、がむしゃらに練習に打ち込んでいた日々でした。」

そして、電子化が進む昨今でも、人と競い合いながらアナログの点字技術を磨いていくことが大切であると続いています。このような点字に対する熱い思いを次の世代に引き継ぎ、点字文化を守り続けていくことが本大会の大きな使命であると改めて感じさせられたことをお伝えし、大会のご報告といたします。

平成30年12月

三重県立盲学校 校長 中村典生

